

号外



# Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～



発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外50号です。地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介と患者サービス推進室の業務報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第48回）

### ～ 圧迫骨折の患者さんの受け入れについて ～



腰痛を主訴に受診される高齢患者さんのうち、一定の割合で、圧迫骨折の患者さんがおられます。圧迫骨折は、特に急性期治療が必要な場合がほとんどないため、急性期病棟の入院対象外となります。しかし、もともと要介護状態であったり高齢者世帯で介護者がいない場合には入院を希望される場合も少なくありません。そのような場合、当院では、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れさせて頂いています。実際、当院の地域包括ケア病棟“彩り”に入院される患者さんのうち、1割程度が圧迫骨折の患者さんです。

\*

先日、ケアマネジャーから、他の急性期病院で圧迫骨折の診断を受け、自宅安静となっている患者さんの入院依頼を頂戴しました。痛みに伴いADLが低下しているため、自宅での介護ができないというのがご依頼の理由です。最終的にはご家族の都合もあり、数日後に“彩り”へ入院となりましたが、中嶋SWが担当ケアマネジャーからの情報などを元に、ご依頼を頂戴した翌日から受け入れできるよう素早く調整を行ってくれました。

これからも引き続き、皆さんの期待に応えられるよう頑張っていきたいと思っています。以下の担当者までお気軽にお問い合わせください。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

**0774-73-1818（担当：中野・中嶋・松田）**

QRコードでDesignのバックナンバーをご覧ください



## 患者サービス推進室について

### ～ 心に寄り添ったサポートを ～

患者サービス推進室は、看護師1名、事務職員2名を配置しています。患者さんからの様々な相談の初期対応する窓口として開設しています。患者さんへのサービス向上のため、日々業務に携わっています。(正面受付左にあります)。



左から、田中、藤井、鶴飼

\*

患者サービス推進室では、他医療機関からの予約で来院された紹介患者さんの受付手続き、診察室及び検査室などへのご案内を主な業務としています。患者さんには必要に応じて申込書や問診表の記入をして頂いていますが、ご自身で記入が困難な場合には申込書や問診表記入の代筆を、問診表の記入方法が分からない場合は、持参された紹介状のデータをもとに患者さんにひとつひとつ確認しながら問診表への記入のお手伝いをしています。また、診察の内容(医師の説明、検査内容、受診費用など)についてご不明な点があれば関係部署に確認した上で説明するなど、患者さんが快く受診できるように対応しています。その他、当日予約外で来院された患者さんの受付手続きのご案内、受診科相談、身体が不自由な患者さんの院内の移動のお手伝いなども行っています。

来院された際、まずどこへ行けばいいのか、何をすればいいのか、誰に声をかければいいのか分からず、困ったり悩まれている患者さんがおられますので、こちらから積極的に声かけし、お話を伺っています。

病院は、身体だけでなく心にも痛みを抱えた方々がいらっしゃる場所ですので、そのような方々の痛みや不安が少しでも和らぎ安心して受診して頂けるよう、患者サービス推進室として患者さんの心に寄り添ったサポートができるように日々心がけています。

(患者サービス推進室 鶴飼 小莉絵)

## 地域医療連携室より

### ～ コロナ禍 ～

「コロナ禍」ってニュースでよく見かけるのですが、なんて読むん？どんな意味？ってずっと疑問でした。コロナうず？、コロナなべ？、うずは渦やし、なべは鍋やし…。皆さんも気になっていませんか？

正解は、「コロナか」です。禍は「わざわい」と読むそうです。知りませんでした。コロナウイルスによる社会的な影響とか、コロナショックとか、そのような意味です。知らないことって世の中に沢山ありますね。

\*

緊急事態制限は解除されましたが、引き続き、3密を避け、マスク着用・手洗い・手指消毒を徹底しましょう。(地域医療連携室 室長 南出 弦)